

令和3年 年頭のご挨拶



森田 弘昭

一般社団法人
日本非開削技術協会会長

新しい年である令和3年が始まりました。

昨年は、世界中が新型コロナウイルス感染症に蹂躪された厳しい1年でした。一昨年の12月末に中国・武漢市で、この感染症が公式に確認されてからわずか2ヶ月で5大陸に感染が拡大し、我が国でも4月16日に「緊急事態宣言」が発出され日本中の街角から人影が消えました。

会員の皆様におかれましては、この未曾有の事態に対して企業の存亡をかけて懸命に対処されたのではないかとご推察申し上げます。当協会においても、総会や講習会のリモート開催を筆頭に手探りで様々な取り組みを実施してきましたが、至らぬことが多々あったと考えています。反省にたつてこの1年間を振り返りたいと思います。

昨年3月は、国内でも感染症の影響が出始めた時期でしたが、大阪ガス(株)様の施設を借用しJSTT初の試みとなる体験型の非開削技術講習会を3月5日に実施しました。地下探査機の実際の操作やHDDマシンの実稼働の見学などを参加者の方々に経験して頂きました。

近年、推進工法を筆頭に非開削技術の海外への展開活動が官民共同で積極的に進められています。この活動では国が日本の技術基準を海外に浸透させ本邦企業が受注活動を行うビジネスモデルを採用しています。当協会ではこの活動を支援するために海外で使用されている非開削技術用語を網羅した日英非開削技術用語集を1年間かけて作成し3月に発刊しました。なお、この用語集発刊の次の活動として国土交通省が企画している東南アジア版推進工法基準の策定に(公社)日本推進技術協会と一緒に参加しています。

4月になると感染症対策として、JSTTでは、事務局業務の完全テレワーク化を開始し5月中旬まで実施しました。現在も、一部テレワークを試験導入しています。

6月は、第12回通常総会をWeb形式で開催しました。これは、JSTTで初めての取り組みとなりました。

7月は、機関誌「非開削技術」の優秀論文表彰式を例年総会終了後に実施していましたが、訪問型表彰式に変更して実施しました。

9月は、非開削技術講演会を会場およびWeb併用型で実施しました。今回のテーマは「環境にやさしい非開削技術」で、日本下水道事業団の阿部千雅様には「SDGsと下水道」、(株)奥村組の山口治様には「下水道管渠のAI損傷検出システムによる効率化技術」をお話し頂きました。

11月は、非開削技術研究発表会を講演会と同じく会場およびWeb併用型で開催しました。全10編の発表を3セッションに分けて実施いたしました。

また同月下旬に埼玉県和光市において(一社)ボックス推進工法技術協会のご協力で、非開削技術見学会を開催しました。こちらは、移動のバスを定員の半数に制限する等、対策を施して実施いたしました。

昨年の活動を振り返りますとコロナ禍は悪影響ばかりでなく新しい世界への扉が開かれたように思います。昨年の6月に「サザンオールスターズ」の無観客ライブが横浜アリーナで開催され世界中のファンが豪華なステージに見ることが出来ました。コロナ禍以前なら参加したいけど会場が遠かったりチケットが取れなかったりと諦めていた人々が自宅で快適にライブを楽しめました。これはサザンオールスターズにとっても多くのファンへの新しいサービスになったのではないかと思います。当協会が、昨年実施したWeb講演会でも遠方の方から参加することが出来て良かったとのメッセージを頂きました。オンラインで広がる新しい世界を大切にして会員の皆様のお役に立つ活動を進めたいと考えています。

最後に、今一度、会員の皆様方の更なるご協力をお願いいたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。